

編集後記：昨日、今学期最後の気象学の授業をしました。普段は普通の講義なのですが、最終回は最新の天気図（高層天気図や数値予報資料なども含めて）を使って天気予報の演習をしています。昨日は穏やかな晴天でした。移動性高気圧に覆われて明日もいい天気でしょう、ではあまりおもしろくないのですが、幸いにも南岸低気圧ができていて、数値予報資料によると、「爆弾低気圧」になりそうです。こうなると、天気予報も楽しくなってきます。高層天気図で上空の気圧の谷と、寒気や暖気の流入を確かめて…と話が進み、数値予報資料で翌日の天気が荒れることを予想して、半年を締めくくることができました。

教科書的に、上空の気圧の谷とか、寒気や暖気の流入とか、書きましたが、日本海低気圧は、こういったアナログな方法で予想できることが多いようです。対して、南岸低気圧の場合、発生・発達の前兆となる気圧の谷を、高層天気図を目で見ることによって見つけることは難しいですね。なぜでしょう？ しかし、そんなときでも、数値予報は、2、3日後の南岸低気圧の発生をかなり正確に予想しているので、最近の数値

予報は本当にすごいと思います。

そういえば、2年前は、同じ授業の日が南岸低気圧の接近で、記録的な大雪災害になりました。授業の曜日は金曜日なので、どうも週末に低気圧が来ることが多いのか、という気になってきますが、きっと偶然でしょう。傾圧不安定波の周期が1週間程度だと、一度週末に天気が崩れると、次の週末も…というように同じパターンが繰り返されることになります。だから、なんとなく週末には低気圧が来やすいような気になるのかもしれない。

ところで、爆弾低気圧が来るのを「幸いにも」とか「楽しく」なんて言っていると怒られそうですね。しかし、たとえば台風の研究は、台風が好きだという方々によって支えられているのではないのでしょうか。低気圧が嫌いでも低気圧の研究が進むとも思えません。人間にとっての価値を判断する前に、もっと多くの人々が自然そのものに関心を持ってほしいと思う今日この頃です。

予想通り、天気が荒れてきましたので、このあたりで。  
(佐藤尚毅)